opusdei.org

## 第一章:この世界を 愛した司祭 (11.Q02)

1. 私は無価値なみじめな者、しかし価値ある愛で一杯の者 (11.Q02)

2010/04/09

11.Q02 - 常時のことだったと思いますが、あの微笑みと快活な態度からは、秘められた煩いや苦しみに気づくのは難しいことでした。しかし、クストス(世話係)には、殆ど始終、心を打ち明けてなんでも話して

いました。ハビエル・エチェバリア 司教様はやがて、エスクリバー・ デ・バラゲル師の内的戦いをそば近 くから見ることになりますね。

11.A02 - ほとんど20年間、私はクストス(世話係)として過しましたが、私たちがした示唆やコメれて殴やコメれてのでいる感謝のうちにめの戦力に必めなりないにとはない、をませいであるないではないである。主にないなの力をしているではないではないであるとしてである。 重要な仕事やそれ程でもないではいました。 駆り立ていました。

何事をも後回しにすることはなく、 何かを正すべき時には特にそうでし た。私たちが忠告したりコメントし たりすることは、明日を待たずにす ぐ実行するよう努めていました。疲 れを口実にすることなく、性格を矯 め直し、神への愛をますます深める よう励みました。それゆえ、神から の教えについて非常に生きいきとし た勧めをすることができたのです。 「いつも次のように勧めています。 良いことはできるだけ早い方がよ い。主への献身においては、私たち をがんじがらめにする鎖はなく、常 によりよく献身する自由があるだけ です。|神が師に頼まれているレベ ルで応えようと努めていました。で すからご自分の毎日で、神が急いで おられることに注意を払わず、怠り があったと思えると、いつも主に赦 しを願っていました。

生涯の最後の日まで、もっと信心を 深め、快活さと楽観的な態度を増 し、義務を正確に果たし、病気をよ り良く忍び、骨身惜しまず働き、完 全に全てをお捧げできるよう、二人 のクストスに頼んでいました。主に 対して決してノーと言わず、神のお 望みに中途半端な応えかたをしなかったと私は保証できます。

自分が実行していたことを人々にも 勧めました。「いつも準備を整え、 何時でも、あらゆる時が私達の戦いになり得ることを考えな言また、他の ばなりません。」また、他事なご言っています。「大事なごは、 使って時でも訪れ得る最後の戦ようは、 来た時、主の御前に出られるようと です。」

この戦いで努力を惜しむことはありませんでした。1971年8月次のように言ったことの中に、その良心のとやかさと神のみ旨に合わせようされていたことが要約は、聖性とは、記を探さずに各瞬間のないます。「聖性とは、聖性とは、言い訳を探さずに各瞬間があるとないます。とは、言い訳を探さずに各瞬間がある。とは、言い訳を探さずに各瞬間がある。とは、言い訳を探さずに各瞬間がある。とは、言い訳を探さずに各瞬間がある。とは、言い訳を探さずに各時間がある。とは、言い訳を探さずに各時間がある。とは、言いである。

ること。聖性とは祈りと仕事を通して、主との根気強い対話に根ざした 絶え間ない主との出会い、深い親交 (水魚の交わり)を求めること。聖 性とは、自分自身を忘れるほど、他 人の救霊のために尽くすこと。聖性 とは、神との個人的な出会いにおい て、いつも『はい』と応えるこ と。|

聖ホセマリアはご自分の性格を完全なものにしていくために、具体的にどんな面で戦われていたかを、少しでも話していただければ、読者の役に立つと思うのですが。

若い時から立派に、自然徳を備えていました。すぐにそして自然に対応できる性格、物事が良く行われていない時や、すべきようにしてないと思えることに対してあからさまに立腹することを欠点として非常に気をつけていました。

いずれにしろ、目立つ欠点になり得 たこのような性格は、師の豊かな人 格形成のための支えとなり、後程、 主が準備しておられたことに立ち向 かうために必要な確固たる基になり ました。性急さは聖なる大胆さに、 直情的な性質は、自分自身には厳し く、他の人には理解を示すことに変 わりました。度々、心の奥深くの思 いを私たちに打ち明けられました。 「あなたたち一人ひとりに迷惑をか けたことがあったら許してくださ い。私の態度で、知りつつも人を傷 付けるようなことはしたくない、と いつも考えているのは確かです。い ずれにしろ、私の振る舞いややり方 で誰かを煩わすことがあったとした

持って生まれた自然な傾きをプラスにするよう戦いました。信念の強さと精力、迅速な決定能力、機智に富んだ独創力、周りの出来事へのすばやい反応力、あるいは様々な難題に

ら許してください。

答えるときの巧みな話術などです。 しかし、自己中心になることはな く、反射的な態度を抑え、主や人々 に仕えるにあっては、正しい意向を 持って話し、振る舞うよう努めてい たのです。

その生涯を見ると、神に向けられた 意志と知性格を完全にきま伝が性格を完できま伝されたといたときま伝がたとがあれていたとがられていたとからまま伝であれていたとからままになるもまないたとができまれているがはないたとができまれている。 では、たいたとがられているがはないたとができまんでは、いたとができまれているがはないたとができまれているがはないできまれているがはないました。 では、からはいましたがいまれていまれていまいました。 pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/dizhang-konoshi-jie-woai-shitasi-ji-11q02/(2025/11/20)